

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500699
法人名	有限会社 プレーメン
事業所名	ピアホーム そよ風式番館
所在地	〒856-0023 長崎県大村市上諏訪町1231番地27号 (電話)0957-48-5519

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(H19年12月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,900 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(12月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	与那城医院・平松整形外科医院・医療法人うえき心療内科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地を通りぬけ突き当りに位置している当ホームは、見晴らしが良い高台に、ゆったりとしたスペースで建設されている。施設長は福祉の為に様々な資格を保持し、生まれ育った場所で入居者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して安全な暮らしを守る事を目標に置き、毎週大村レクリエーション協会の先生によりゲーム・手遊び・歌を取り入れ、外部との交流を図って刺激のあるケアを積極的に取り組まれている。福祉に対する思いは職員全体に浸透し、職員会議を充実する事で、穏やかで質の高いサービスが提供され、入居者は落ち着いた優しい表情で生活されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を真摯に受け止め、職員に伝え前向きに取り組む姿勢はあるが、日々多忙な事もあり、改善計画シートの作成がなされていない。前回の改善点である、運営方針がそのまま理念として掲げているが、分かりにくい。今後は、職員・入居者・家族が共有でき、目標となる理念等、今一度改善点の見直しが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長とケアマネにより自己評価を記入し、職員には話しをする事はあったが実施に加わる事はなかった。自己評価票を職員に配布し、記入・検討に参加する事で項目を把握し、ケア面の見直しを実施し、スキルアップに繋がる研修の一環として活用される事が期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現時点では運営推進会議は一度も開催されていない。構成メンバーの方の家族に不幸があり調整中である。町内の代表を早急に決められ、運営推進会議(概2ヶ月毎に開催)を様々な意見を聞く場所として考え、市町村・地域・家族・施設との連携の場として、質の向上に活用する手段にされる事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族とは面会に来られた時にお話しをして、希望・苦情・相談を受け、日誌に記入し、その都度見極めを行い、結果を伝え運営に反映している。来られない家族には電話等で連絡をしているが、ホームの様子や何時でも傾聴の体制がある事を織り込んだ、便りの発行が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携
	町内会に加入しており、出来るだけ作業に参加する事を希望しているが、現在の入居者で積極的に動ける入居者が少なく参加が限られている。施設長が生まれ育った地であり、町内とは馴染みがあり、交流に向けて前向きに努力している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針を理念として掲げ、幅広く支援の方向を位置づけ、入居者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して安全な暮らしを守る事を目標に置き、日々の支援に活かしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで話をする事はあるが、理念が4項目にわたり、方針を詳細に表しているが、理解が難しく全部を実践し、職員間で共有を図るのは困難である。		運営方針を理念として明示されているが、多岐に亘り理解しづらい。職員全員で話し合われ、皆が目標になる分かり易い、合い言葉的に出来、共有が図りやすい文言にされる事が期待される。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、出来るだけ作業に参加する事を希望しているが、現時点で積極的に動ける入居者が少なく参加が限られている。しかし、施設長が地域の出身であり、町内とは馴染みであり、交流に向けて努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長とケアマネにより自己評価を記入し、職員には話をする事はあったが実施に加わる事はなかった。前回の改善点はできる事は改善しているが、改善計画シートの作成はなく、計画的とは言えない。		自己評価を職員全員に配布し記入する事で、評価内容を共有し、必要項目を把握する事で研修の一環として活用し、質の向上に繋がる事が期待される。又、改善点は改善計画シートを作成し、計画的に取り組まれる事が望まれる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点では運営推進会議は一度も開催まで至っていない。構成メンバーの方の家族に不幸があり、調整中であり、開催に向けて前向きに努力中である。		町内の代表や家族の代表を早急に決められ、運営推進会議(概2ヶ月毎に開催)を様々な意見を聞く場所として活用され、市町村・地域・家庭との連携の場として、質の向上に繋がる手段にされる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関連施設「わんから」(自立生活棟)があり、市役所の保護課とは密接な連絡が必要であり、1~2ヶ月毎に来所される事が、報・連・相の関係が確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は来所持や状況の変化時や受診時に連絡を行っているが、便りの発行はしていない。金銭は個人立替表に記録し、利用料の請求時に一緒に載せている。領収書は税理士によるチェック後、家族に渡しており、明確にしている。		入居者の生活は家族としては一番知りたい事であり、行事やホームでの出来事と一緒に、個々の生活やエピソードを記入した便りを発行し、入居者と家族が情報の共有を図り、関係再構築を視野に入れた支援に活用される事が期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時にお話しをし、希望・苦情・相談等は日誌に記録している。又、その都度見極めを行い、結果は家族へ伝え、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員は家族の面会時に紹介し、声を掛けながら働きやすい環境に配慮している。異動は必要時のみ実施しているが、週1回のレクリエーションを全体で実施しており、入居者とは顔見知りであり、スムーズに異動が出来る。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修を1日設けている。外部研修は出来るだけ参加し、情報を持ち帰り伝える事で共有を図っている。スタッフ会議を毎月1回、約3時間で実施し、ケア面や投薬(変更や内容の把握)について勉強をし、スキルアップに繋げている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、互いのスタッフを1日交換し、優れている部分や他ホームを知る研修を実施している。又連絡協議会で独自の評価機関を立ち上げ、評価を実施し、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者・家族と面会をしての聞き取りや、以前利用していたケアマネから現在までの情報提供を受けたり、ホーム内見学や自宅訪問をしながら納得しての入居に繋がる取り組みをしている。又、ホームに慣れるまでは家族の宿泊を願ひし、注意を払いながら安定されるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、学ぶ場面は多々あり、方言を含めた言葉・昔の歌・慣わし・雑巾作り等、優れた事を教わり、互いに支えあいながら一緒に生活を楽しんでいる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用調査票や介護記録の記入や、個人台帳の表紙の部分に色紙で入居者の特徴を絵で書き、知り得た情報を書き加えながら、その人の全体像を作成している。一目で理解でき、職員が共有しながら本人本位に検討し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議は綿密に3時間をかけて開催し、スタッフ全員の意見や、入居者や家族の意向を踏まえた、実践可能な個別具体的なサービス内容の充実した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、ケア実施表に目標の達成度を記録し、1ヶ月毎にモニタリングシートに記入を行い、情報を収集しながらスタッフ会議で一人ひとりの達成状況を見極め、現状に即した計画の見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が地域で安心して生活出来るように、医療連携・病院受診介助や往診(必要時のみ)・重度化に伴う終末期の入院回避(希望者のみ)・家族の宿泊・リフトバス・外食・訪問美容・週1回レクリエーションの指導等多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医や提携医療機関や精神科の専門医等、状況に沿って支援している。報・連・相の連携が取れており、24時間指示が仰げ、状況では往診の体制が取られており、適切な医療支援が出来る。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では実施はないが併設のホームでは看取りを行っている。又、書類面の準備はないが、医師と相談し医療行為が重度でなく、家族の希望があれば看取りを行う予定であり、職員会議で話し合いを実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損なわないように、失禁時の言葉かけは、他の入居者に聞こえたり、見えないように注意している。浴室は見晴らしが良く、窓が大きく開放感があり素晴らしいが、近隣の住宅から見える可能性が高い。		浴室は景色の良さから開放的にされているが、外部の目線に配慮し、現在、付いているブラインドだと全体が見えなくなる事から、下の部分に簾や植木等で目隠しをされると更に良いのではないかと。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の基本を「その人らしく」を念頭に置き、主人公を入居者である事を理解し、管理するルールはなく、それぞれの望む生活が送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業では、食材の下ごしらえ等、入居者が出来る事は積極的にされ、畑の葱が食卓に上がる事もあり、楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴日とし、他の日は清拭をし、毎日、下着の着替えの清潔保持に重点を置き、着替える習慣をつけている。時には仲間と入浴を楽しむ事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップがけ・庭掃除・居室のドア拭きや新聞でテレビの番組を見たり、週1回の習字、誕生会(ケーキは手作り)や米寿の祝いやレクレーション等、生活に変化を取り入れ、出来る事・興味のある事を積極的に取り入れ、メリハリのある生活を楽しまれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭で日向ぼっこをしたり、併設のホームに出かけている。家族の協力を得て外出・ドライブ・外食(約年3回)・畑・施設周辺の果樹採り等、季節に応じた外出支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周りには転落防止の安全柵を設置し、入居者は一人で併設のホームに行かれる事がある。後ろから気付かれないように付き添い、満足された頃、声掛けして帰宅しており、日中は施錠する事はない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	H19年度は総合的な訓練は年1回、自主訓練は3ヶ月毎に実施している。消火器の扱い方や通報と緊急連絡体制を確立している。地震等の天災を想定した訓練の実施はなく、備蓄としてカップ麺や米の確保はある。		何時如何なる時に発生するか分からない、地震等の天災を考慮して、避難方法や対処を想定した訓練の実施や、非常時の備蓄品を今一度チェックされる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	代表が調理師の資格を持ち、入居者にバランスの良い美味しい食事を提供している。咀嚼を考慮して刻み食や、糖尿病等制限のある人は医師の指導を受けている。常に体重に注意を払い、食事に変化をつけるように心掛けている。水分は総合的に配慮して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高台に位置し、静かな場所で騒音はなく、明り取りや広い窓で開放感があり、車椅子で行き来出来るように廊下を含む、全てがゆったりとしたスペースである。入居者が自由に過ごす場所があり、加湿器を置き居心地良い空間を提供している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族が来てゆっくりと過ごして頂く事を目的として、板張り畳に区分され、広いスペースを確保し収納棚が充実している。安全面を考え、床や周りには転倒に繋がる品を置かず、家族と相談しながら部屋作りをしている。		